

# 旧広島陸軍被服支廠について

令和3年11月

---



# 【位置図】



## 【建物の概要】

- 現存する4棟のうち1棟を国が, 3棟を県が所有
- 被爆の痕跡を今に伝える国内最大級の被爆建物
- 最古級の鉄筋コンクリート造建築物による  
連続して500mに及ぶ歴史的景観に重要文化財級の価値
- 構造は鉄筋コンクリート造とレンガ造が複合する国内で希少な建築物
- 国内で現存する最大級の煉瓦建築物

## 【規模】

区分	第1~3号棟(県)	第4号棟(国)	合計
外寸 (長さ×幅×高さ)	91m×25m×15m	105m×25m×15m	—
延床面積	5,578㎡×3棟=16,734㎡	4,985㎡	21,719㎡

※4棟の延床面積は, 東京ドーム(グラウンド面積: 13,000㎡)の約1.7倍

# 【沿革等】

年		摘 要
大正 2	1913	竣工 陸軍被服支廠（現在108年経過） 陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う。
昭和20	1945	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和27	1952	国立広島大学整備のため，交換により，大蔵省から3棟を取得
昭和31	1956	日本通運に貸付け（H7年3月まで約40年間）
平成 6	1994	広島市が被爆建物として登録 ■この間，様々な利活用構想が検討されるが，活用されないままとなっている。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 瀬戸内海文化博物館（仮称）構想（H7 県）</li> <li>・ エルミタージュ美術館分館誘致構想（H12 県）</li> <li>・ 折り鶴ミュージアム（仮称）構想（H23 広島市）</li> </ul>
平成30	2018	<p>○耐震性能等調査結果「震度6強の地震で倒壊する可能性」（30年1月）</p> <p>○耐震改修試算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部利用（博物館等） 1棟約33億円，3棟で100億円</li> <li>・ 建物保存のみ 1棟約28億円，3棟で84億円</li> </ul> <p>■大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故（30年6月）</p>
令和元	2019	建物の安全性の確保と建物が有する価値等を考慮して，「1棟保存・2棟解体」の対応方針案を示した。

# 【沿革等】

年		摘要
令和2	2020	煉瓦壁の倒壊防止を目的として、建物壁面補強調査・実施設計業務を実施（2年1月～2年9月） ⇒調査の中で、煉瓦壁の強度が高いことが判明（2年5月）
		煉瓦壁の強度を踏まえ、改めて建物の詳細調査を実施（2年10月～12月） <ul style="list-style-type: none"> <li>■煉瓦壁は地震等による倒壊の恐れはないものの 各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な対応が必要</li> <li>■国指定の重要文化財級の価値がある。</li> <li>■概算工事費：1棟約5.8億円，3棟で17.4億円</li> </ul>
令和3 (県議会2月定例会)	2021	詳細調査結果を踏まえて、 <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要文化財級の価値があり、建物の解体を俎上に載せることは適当でないこと。</li> <li>○概算工事費は、低減される見込みであること。</li> <li>○広島市からは、3棟保存を求められていること。</li> </ul> ⇒1棟保存，2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、 最終的な方向性を検討・整理するとの方針を示した。
(県議会5月総務委員会)		■建物3棟の安全対策を実施するとの方針を示した。
(県議会6月定例会)		早急に実施する必要がある安全対策等の予算を提案し可決・成立 <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全対策に係る建物3棟の実実施設計</li> <li>○重要文化財の指定に向けた建築物の価値調査</li> <li>○活用の方向性のとりまとめに向けた検討</li> </ul> } 現在、取組を進めている。



## 重要文化財級の価値【建物3階】

国内最古級の鉄筋コンクリート造建築物



# 重要文化財級の価値

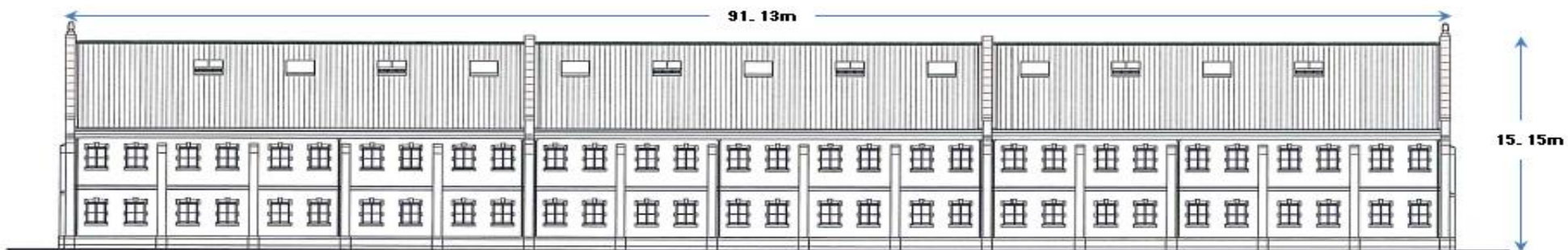
500mに及ぶ歴史的景観







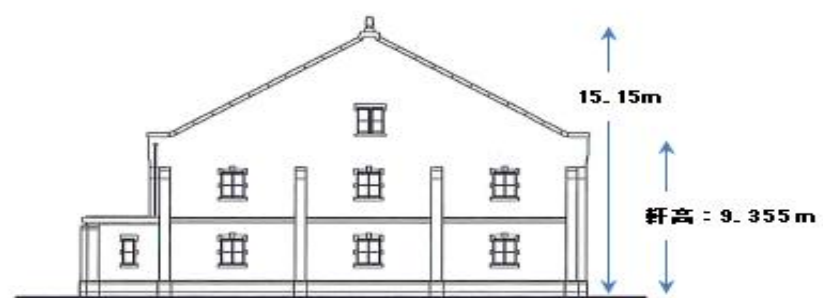
東側



西側



南側



北側

市道幅：4m